

# 今こそやろう減災式

防災を学ぶ上で「**脅しの防災**」「**知識の防災**」「**姿勢の防災**」の3種の防災があるといわれています。

「**脅しの防災**」では、「**地震は怖い**」「**津波は怖い**」「**水害が多い**」「**この土地では昔に大きな被害があった**」などと、災害の恐怖を教えようとすると継続した防災活動ができないといわれています。

「**私たちが住んでいるこの加古川には、近くに山崎断層という大きな地震の揺れをもたらす断層や、目の前には阪神淡路大震災の原因となった野島断層が存在。南海地震が発生すれば津波も襲う。その上、過去に大水害を発生させ町の名前にもなっている加古川という河川がある。だから防災活動が必要だ**」という恐怖喚起をさせる学びを行っても、住民にとって良い防災活動ができるのでしょうか？

私たち人間は、心のバランスを安定させるために「**恐ろしいこと**」は忘れるようにできているそうです。忘れることで心のバランスを安定維持できるのです。だから、怖い恐ろしいの「**脅しの防災**」は災害発生直後や脅しによる恐怖感を与えた一時的な効果だけで、継続した備えの防災には繋がりません。また「**脅しの防災**」は更なる弊害をもたらします。脅されると「**自分たちの住む加古川は怖いまち。だから加古川は嫌いだ**」と自分の町「加古川」を嫌いになってしまえばかりではなく、自分の住むこの町に誇りを持ってなくなり離れてしまいます。

逆に「**加古川は素晴らしい町で、私はここにずっと住み続けたい。だから、加古川の防災についても学んでおかなければならない**」と思えることが、継続した防災活動をする上での重要なキーワードになります。

言い換えると「**加古川は山も川も海もある。山には素晴らしい自然が有り、川には綺麗な水が流れ、目の前の瀬戸内海では豊かな自然により美味しいものが獲れる。その上、大阪や神戸にも近く、本当に住みやすいまちだ**」と考えればどうでしょう？自然からの恵みを分けてもらうためには、大いなる自然とも付き合いなくてはならない。ならば、自然が少し身震いをした時に、上手く自然と付き合う方法を考えれば良いのです。

加古川で暮らすためには、大いなる自然に敬意を持ち、自然の恵みを少しだけ分けてもらい、この町に暮らす上で自然のもたらす災害を上手にやり過ごせば良い、だから「**やり過ごすための知恵**」が必要で有り、それが、この町で暮らすための「**住む作法の防災**」だと考えれば良いのです。

では「**知識の防災**」はどうでしょう。典型的なものが「**ハザードマップ**」です。ハザードマップは過去の災害による情報を数値化しシナリオにしたものです。

だからといって、次に襲ってくる災害がハザードマップの通りに襲って来るとは限りません。地球の歴史から比べれば、人間が持つ少しの知識で描けるほど大自然は甘くはありません。ハザードマップに命を守る情報を依存しすぎると、災害イメージの固定化が進むといわれています。そうすると、被害想定エリア外に住む人は、大雨が降って自分の家の前の川が溢れそうになっても、私の住むこの場所には、水害もなく、土砂災害も襲ってこないと勘違いを起こしてしまうのです。その結果、非常に残念な結果となることが多いのが現状です。

最後の「**姿勢の防災**」は何れの状況下でも、人間により仮想的につくられた想定を固定化せず、大自然の振る舞いには臨機応変に考え行動し、それぞれの状況下においても最善をつくすことができるようになることです。

突然の自然の振る舞いに付き合うためには、防災の知識だけではなく、主体的に災害と向き合い、命を守る行動を臨機応変にとる「**責任ある姿勢**」が一番大切です。

自分の町は、こんなに良いまちだ。ここに住み続けたい。だから、この町に住むための災害のやり過ごし方「**住む作法**」の防災・備えを学びましょう！それこそが「**命を守る防災活動**」そのものです。そのためにも、自分の町を好きになり、誇りを持てる「**あなたの町**」を一緒につくりましょう！それは「**挨拶**」から始まります。

## 【不思議な防災文章・本当にあってるの？】

9月1日「防災の日」を迎えて、色々な場面で次の言葉が使用されていました。それは「**震災を風化させない**」という言葉です。よくメディアでも災害後の場面で非常によく使われる言葉なのですが、「**震災を風化させない**」果たしてこれって正しい使い方なのでしょうか？

そこで広辞苑で調べてみることにしました。

「**震災**」…地震の災害

「**災害**」…異常な自然現象や人為的原因によって、人間の社会生活や人命に受ける被害

「**被害**」…損害をこうむること

「**風化**」…徳によって教化すること

「**徳**」…道を悟ったり、立派な行動、善い行い

「**教化**」…教えを導いて、善に進ませること

あれ？この通りならば「**震災は風化させた方が良い！**」のではないのでしょうか。「**震災は風化させる**」。これは次の時代に、防災活動がすべての人に受け継がれ当たり前におこなえていること。現代のように多くの人が、命を守る防災活動をしていないのとは打って変わり「えっ？防災やっていないの？」と防災活動をやっていない人が少数派となるのです。でも、辞書の意味の通りに、震災を風化させても、防災活動をしないう人、コミュニティ活動に参加しない人は無くならないでしょうね。

今回の減災式は、「**自分の住む町を好きになり、大好きな町に住むための作法を学ぼう！**」です。

